

# 公務員の仕事に興味・関心がある方へ 東海村役場でオープン・カンパニー(職場説明会)を開催します!

「職場の雰囲気」をより気軽に・身近に感じていただく機会として「オープン・カンパニー(職場説明会)」を開催します。この機会に自治体の仕事を知り、役場で働くイメージを膨らませてみませんか。皆さんの参加をお待ちしています。



期日▼3月4日(水)

時間等▼

	時間	場所	定員
第1部(対面)	9:00～11:00	東海村役場	先着25人程度
第2部(オンライン)	13:30～15:00	Web会議システムZoom	人数制限なし

対象▼東海村役場(公務員)の仕事に興味がある学生や社会人の方

内容▼職場見学(第1部のみ)、先輩職員との意見交換、東海村役場の仕事や採用試験について

申し込み▼2月20日(金)までに「いばらき電子申請・届出サービス」から申し込みください。

※詳細は村公式ホームページをご覧ください。



【問い合わせ】人事政策課人事政策担当(☎282-1711 内線1321)

▲村公式HP

ふるさと歴訪  
—歴史を再発見—

## 戦禍に巻き込まれた村松

東海村文化財保護審議会副会長

宮内 教男

写真は花曇りの久慈川河口・東海村周辺です。柔らかな陽光が雲間から注いでいます。令和2(2020)年3月、関西での史料調査の帰途、神戸空港発・茨城空港行SKY184便の機窓から撮影しました。文明17(1485)年3月、この穏やかな景觀は、鳴り響く兵鼓とそびえ立つ軍旗により一変しました。

この年、陸奥の岩城常隆が、突然、常陸国に軍事侵攻を開始し、車氏の車城(北茨城市)、大塚氏の竜子山城(高萩市)を攻略しました。さらに常隆は兵を南下させ、村

松で佐竹義治の迎撃軍と激しい交戦を展開しましたが敗れて撤退しています。

岩城氏の軍事侵攻の目的は、佐竹氏の海上交易の要所・久慈浜を攻撃し、太平洋岸の交通・交易の主導権を握ることにありました。岩城氏の軍勢は、隣接する現在の日立市域での足取りが全く確認されないことから、海上を移動し村松に上陸したと推測されます。

久慈浜は、佐竹氏の本拠である太田(常陸太田市)の



【久慈川河口・東海村周辺(筆者撮影)】

外港として重要な湊でした。戦国期の久慈川は河口が砂州に遮られ、北側にはほぼ直角に屈折。砂州が波浪・津波の侵入を緩和する天然の防波堤となり、入り江の久慈浜は「唐人」らも往来する太平洋岸の代表的な良港でした。直近の村松虚空蔵尊は、当時、その別当職を、佐竹氏の菩提寺・正宗寺(常陸太田市)の住持が兼務するなど佐竹氏との関係が深く、海上交通の安全を守護するという信仰上の役割も担っていました。

この戦いで村松虚空蔵尊が焼失してしまった。六地蔵寺(水戸市)の恵範は、永正7(1510)年に著した「村松虚空蔵勧進疏」に、「兵火により紅の火が燃え上がり、虚空蔵堂が灰や炭になってしまつた」と記し「悲しいかな」と所感を付しています。戦場では、城郭が標的となるだけではなく、寺社や庶民の住宅への放火、女性や子どもの誘拐、資財の略奪など兵士の狼藉が生じました。戦国時代の合戦は、しばしば武将の英雄譚として語り継がれます。多くの非戦闘員の犠牲を伴うものだつたのです。



▲70周年記念公式X